

「モバイル空間統計」による福岡県観光ビッグデータ調査 概要

1 調査目的

福岡県内市町村における日本人及び訪日外国人旅行者の来訪・宿泊や周遊の状況を調査し、観光振興施策の企画・立案等に活用することを目的として実施。

2 調査概要

本調査は、「モバイル空間統計」を活用。「モバイル空間統計」は、携帯電話ネットワークのしくみを使用して作成される人口の統計情報で、1時間ごとの人口を24時間365日把握することが可能。

また、属性別の行動パターンを客観的に分析可能であるため、この仕組みを利用し、福岡県全市町村の人の動きを調査した。

3 調査期間

平成31年1月1日～令和元年12月31日

4 調査条件

対象者	国内旅行者（15歳未満は対象外） 訪日外国人 ※国内旅行者は国内契約携帯電話約7,800万台からサンプル抽出・推計を行うため、日本人のみの抽出ではない。 ※ビジネス客や帰省者なども定義に合致すれば抽出。 定義「片道80km以上の移動もしくは所要時間8時間以上、2時間以上滞在」 ※訪日外国人であっても「2時間以上の滞在」などの定義に該当しない場合は抽出されない。 ※「訪日外国人客」のサンプルは、「国内旅行者」と比べ必要十分に確保できないことがあるため、「国内旅行者」よりも誤差が大きな数値となる可能性がある。
サンプルサイズ	国内居住者約8,000万台（2020年3月現在） 訪日外国人約1,200万台（2019年の年間実績） ※集計処理では、国内旅行者は、住民基本台帳をもとにした拡大推計処理を属性別に実施。 訪日外国人は、法務省の出入国管理統計をもとにした拡大推計処理を実施。
対象の場所	福岡県全域及び各市町村別
対象の時間帯	全日（0-23時台） 宿泊（2-4時台） 滞在（10-17時台）
カウント方法	実人数（期間ユニーク）：同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず1人と集計 延べ人数（日別ユニーク）：同一エリアにおいて、2日間滞在した場合に2人と集計 ※旅行者数は実人数、宿泊者は延べ人数で集計し割合に変換

5 定義

用語		定義
国内旅行者		「片道移動距離 80km 以上もしくは所要時間 8 時間以上」の移動を旅行者として抽出。 ただし、「片道移動距離 80km 以上もしくは所要時間 8 時間以上」の移動であっても、以下の移動は 抽出しない。 ・通勤、通学の移動 ・足元及び隣接市町村居住者の移動
訪日外国人		24 時間以上、日本に滞在している端末で、以下の条件を満たす移動を訪日外国人として抽出。 ・入国場所が特定できる端末（最初の信号が空港/港近辺で補足されている） ・継続して電源が投入されている端末（国内移動を考慮し数時間の信号なしは許容） ・出国場所が特定できる端末（最後の信号が空港/港近辺で補足されている） ※日本滞在が数時間で滞在先が限定されるクルーズ船入国者（船舶観光上陸許可）は推計対象外
時間区分	旅行者	時間区分に関係なく（0-23 時台）、ひとつのエリアに 2 時間以上滞在している来訪者数の実人数の総数。 ※報告書では宿泊者と記載がある場合を除き、全日で抽出された者を記載している。 ※ただし、1km メッシュについては、1 時間以上滞在
	宿泊者	夜間時間帯（2-4 時台）に、ひとつのエリアに 2 時間以上滞在している来訪者数の延べ人数の総数。

6 調査結果

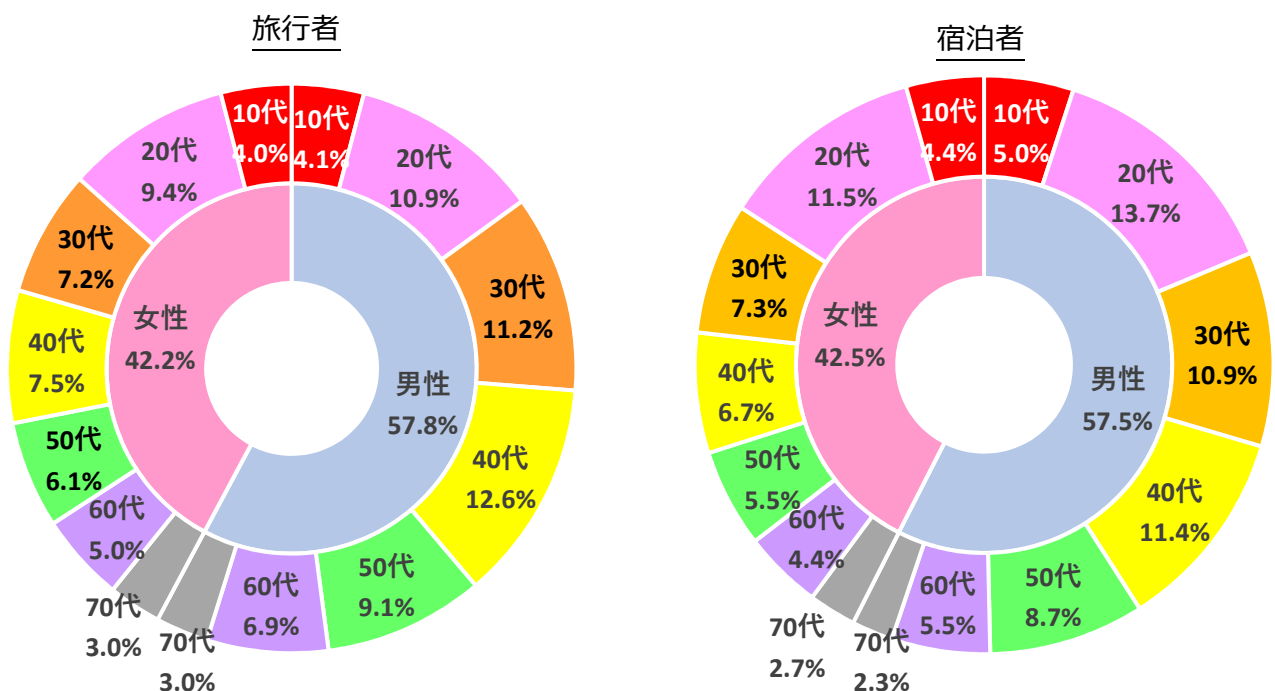
（1）国内旅行者の傾向

①性・年代別

- ・旅行者、宿泊者ともに 20 代から 40 代で約 6 割を占める。
- ・性・年代別に見た場合、旅行者は 40 代男性、宿泊者は 20 代男性が最多。
- ・女性は旅行者・宿泊者ともに 20 代をピークに高齢に向けて単純減少となっている。

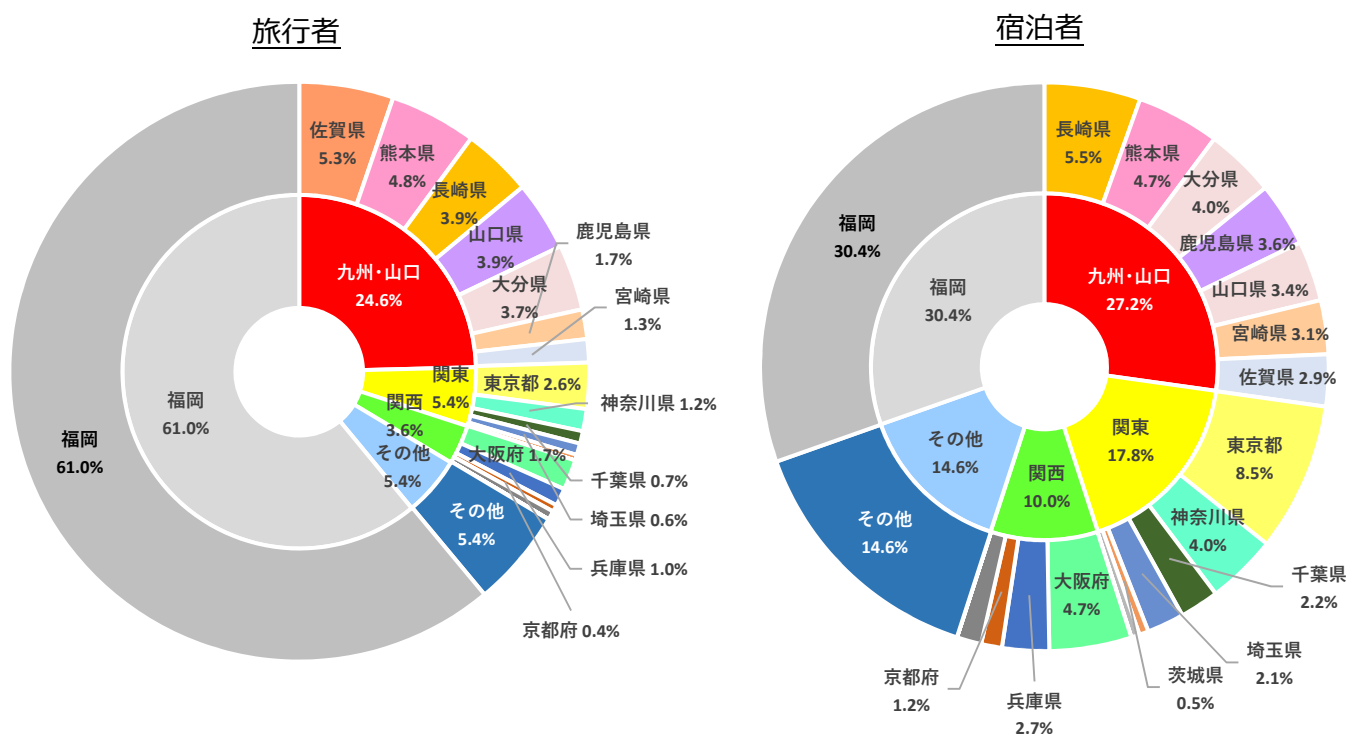
年代別構成割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
旅行者	8.1%	20.3%	18.4%	20.1%	15.2%	11.8%	5.9%	100.0%
宿泊者	9.4%	25.2%	18.2%	18.1%	14.2%	9.9%	5.0%	100.0%



②居住都道府県別

- ・旅行者、宿泊者ともに福岡県居住者の割合が最多で、旅行者は61.0%、宿泊者は30.4%を占める。
- ・九州6県からの旅行者は20.7%、宿泊者は23.8%。
- ・関東からの旅行者は5.4%、宿泊者は17.8%、関西からはそれぞれ3.6%、10.0%。



③宿泊前後の滞在状況

- (※県内4地域における最も宿泊者の多い市(福岡市、北九州市、久留米市、飯塚市)を集計)
- ・4市のいずれにおいても、宿泊地が滞在先上位1位となり、福岡市以外の3市の滞在先上位2位は福岡市となっている。
 - ・福岡市、北九州市、久留米市、飯塚市で、宿泊前後の滞在先として羽田空港のある東京都大田区が上位に入る。
 - ・福岡市は長崎県長崎市、北九州市は山口県下関市、久留米市は佐賀県鳥栖市と佐賀市の割合が比較的高い。

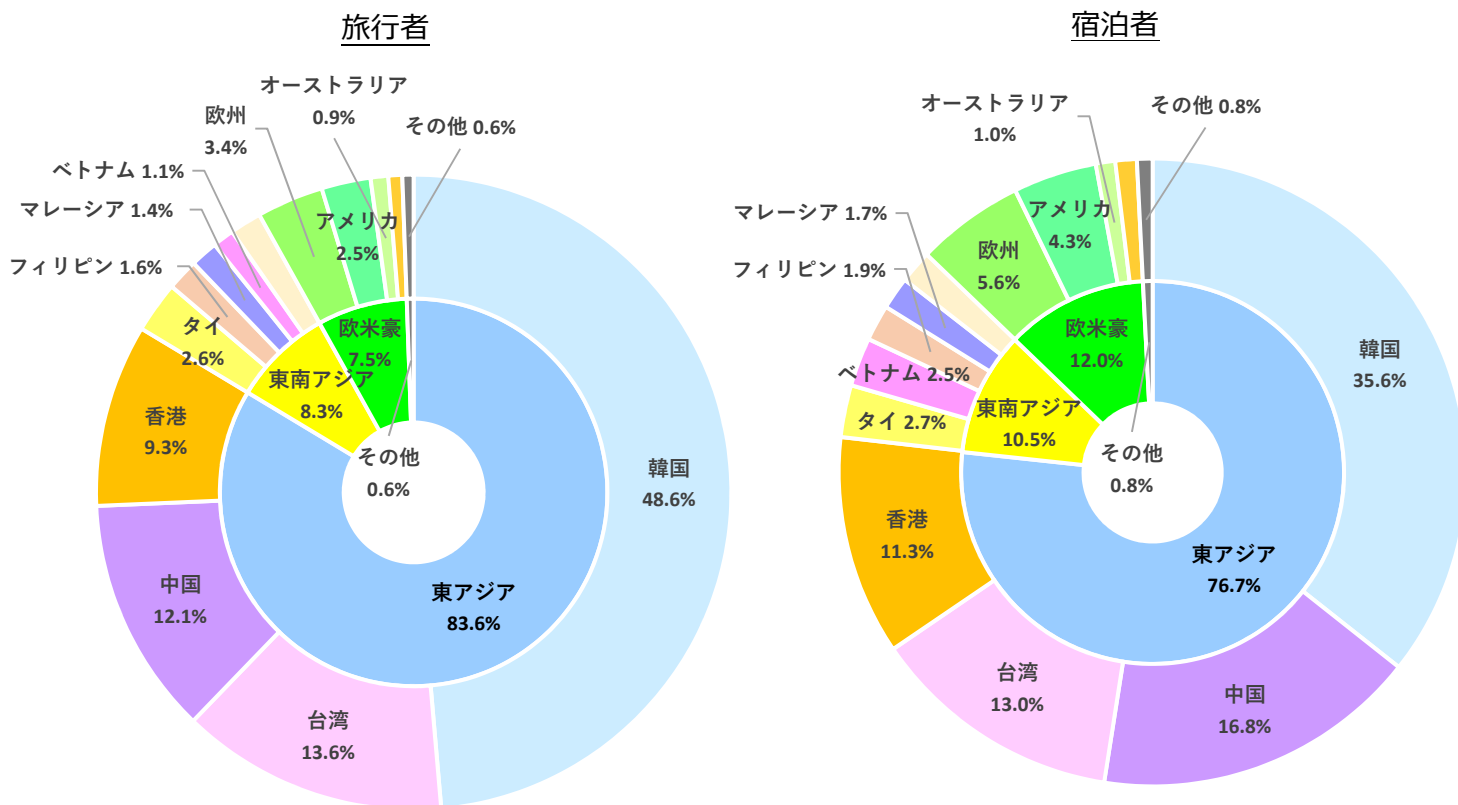
福岡県内に宿泊した国内旅行者の宿泊前後の滞在地

	滞在先上位1位	滞在先上位2位	滞在先上位3位	滞在先上位4位	滞在先上位5位
福岡市	福岡市	東京都 大田区	太宰府市	北九州市	長崎県 長崎市
	50.8%	5.3%	3.4%	2.6%	1.4%
北九州市	北九州市	福岡市	山口県 下関市	東京都 大田区	大分県 別府市
	45.1%	12.4%	4.7%	3.2%	1.1%
久留米市	久留米市	福岡市	佐賀県 鳥栖市	東京都 大田区	佐賀県 佐賀市
	47.1%	10.7%	3.5%	2.7%	2.0%
飯塚市	飯塚市	福岡市	嘉麻市	北九州市	東京都 大田区
	51.3%	11.9%	2.8%	2.8%	2.7%

(2) 訪日外国人の傾向

① 国籍別

- ・ 韓国からの旅行者は 48.6%、宿泊者は 35.6% を占める。
- ・ 旅行者は台湾が 2 位で 13.6%、次いで中国 12.1%、香港 9.3% の割合が高い。
- ・ 宿泊者は中国が 2 位で 16.8%、次いで香港 13.0%、台湾 11.3% の割合が高い。



② 宿泊前後の滞在状況

(※県内 4 地域における最も宿泊者の多い市(福岡市、北九州市、久留米市、宮若市)を集計)

- ・ 福岡市、北九州市、久留米市は、宿泊地が滞在先上位 1 位となっている。
- ・ 宮若市は、滞在先上位 1 位が福岡市、滞在先上位 2 位が宮若市となっている。
- ・ 各市とも大分県由布市が上位にあるほか、福岡市と北九州市では大分県別府市、久留米市では佐賀県鳥栖市の割合が比較的高い。

福岡県内に宿泊した訪日外国人の宿泊前後の滞在地

	滞在先上位1位	滞在先上位2位	滞在先上位3位	滞在先上位4位	滞在先上位5位
福岡市	福岡市	大分県 由布市	大分県 別府市	太宰府市	熊本県 熊本市
	31.5%	10.1%	5.1%	4.8%	3.6%
北九州市	北九州市	福岡市	大分県 由布市	大分県 別府市	山口県 下関市
	22.5%	16.2%	8.2%	6.7%	4.2%
久留米市	久留米市	福岡市	佐賀県 鳥栖市	大分県 由布市	熊本県 熊本市
	19.3%	18.4%	4.7%	4.0%	3.6%
宮若市	福岡市	宮若市	北九州市	大分県 由布市	太宰府市
	40.1%	36.1%	7.4%	3.8%	3.4%

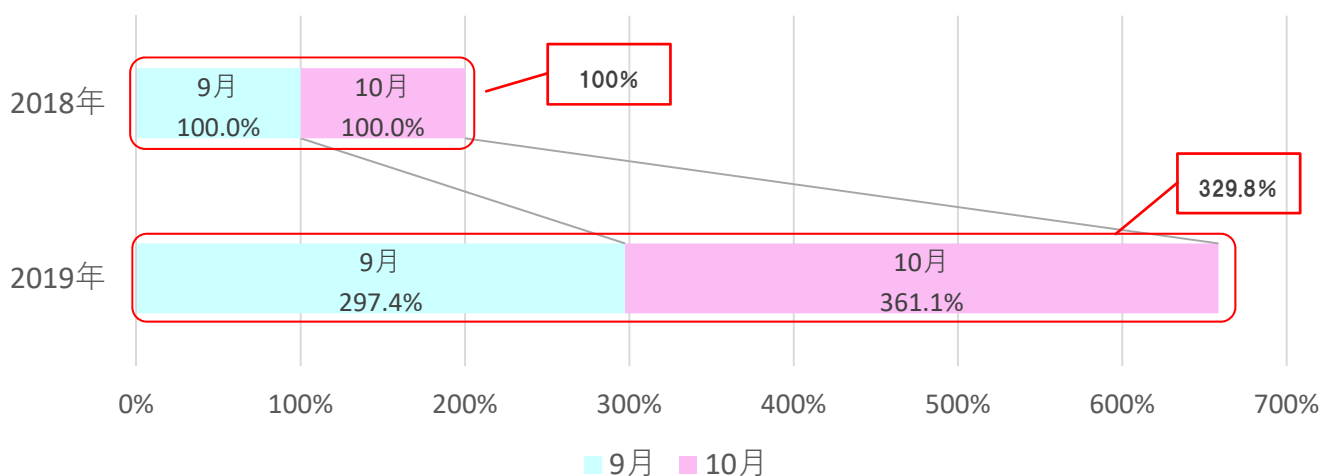
(3) ラグビーワールドカップに関する調査 (2019年9-10月)

東平尾公園博多の森球技場での試合が開催された2019年9月-10月について、前年との変化を調査。

(参考) 東平尾公園博多の森球技場での試合日程			
・ 9月26日	イタリア	vs	カナダ
・ 10月2日	フランス	vs	アメリカ
・ 10月12日	アイルランド	vs	サモア

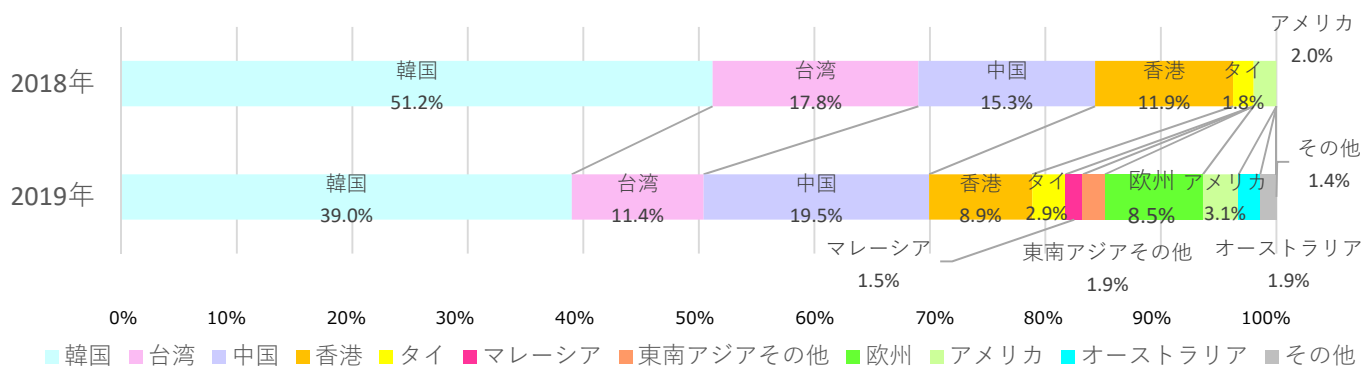
① 試合会場メッシュにおける訪日外国人旅行者の推移

- ・ 2019年9-10月における試合会場メッシュの旅行者数は、2018年と比較して9月は約3倍、10月は約3.6倍となっている。
- ・ 9-10月の合計では2018年と比較して約3.3倍となっている。



② 試合会場メッシュにおける訪日外国人旅行者の国籍の推移

- ・ 2019年9-10月の旅行者は、韓国 (39.0%) が最も多く、次いで中国 (19.5%)、台湾 (11.4%)、香港 (8.9%) と続く。
- ・ 2018年と比較すると、欧米豪の国籍別シェアが2.0%から2019年には13.5%と増加しており、ラグビーワールドカップを目的とした訪日需要の高まりによるものと考えられる。



※調査報告書は、福岡県ホームページに掲載
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kankoubigdate2019.html>